

鹿児島県総合教育センター  
平成23年度長期研修研究報告書

研究主題

高等学校における古典の学習指導の在り方  
－ 「古典B」の単元構想を通して －



鹿児島県立指宿高等学校  
教諭 近藤 美希

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	研究主題に関する基本的な考え方	2
(1)	高等学校における古典の学習指導について	2
(2)	「古典B」の単元構想について	3
2	古典の学習に関する生徒の意識調査の分析と考察	5
(1)	古典の学習指導に関する意識調査の分析と考察	5
(2)	調査結果から設定した研究の視点	6
3	「古典B」の学習指導	6
(1)	年間指導計画の作成について	6
(2)	単元を貫く言語活動の具体化について	11
(3)	傍注資料について	14
(4)	学習の手引について	15
4	検証授業Ⅰにおける検証	16
(1)	検証授業Ⅰの単元名及び実施学年等	16
(2)	検証授業Ⅰの実際	16
(3)	検証授業Ⅰの成果と課題	19
5	検証授業Ⅱにおける検証	20
(1)	検証授業Ⅱの単元名及び実施学年等	20
(2)	検証授業Ⅱの実際	20
(3)	検証授業Ⅱの成果と課題	24
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	25
2	今後の課題	25

※ 引用文献・参考文献

## I 研究主題設定の理由

平成17年度高等学校教育課程実施状況調査の国語科で、生徒は古典の学習が「普段の生活や社会生活に役に立つ」とは思っておらず、「古文が好き」の項目に否定的な回答が7割に及んだ。この現状から、「古典を豊かに読む態度の育成」が求められており、古典に関する知識・技能、古典を読む能力、古典に対する学習意欲などの指導を改善する必要があると考えた。本校においても同様の傾向である。生徒は、古典に親しむというより受験にのみ必要なものと考え、文法事項に重点を置き、古典に対して言語的に抵抗を感じている。これまで私は、古人のものの見方、感じ方、考え方を学ばせることによって、生徒の認識を広げたり深めたりすることができるといった考えの下で指導してきたが、文化としての言語を十分に捉えさせることができたとは言えない。

平成21年告示の高等学校学習指導要領において、国語科ではこれまでの三つの領域構成は変わらずに〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。小学校、中学校及び高等学校を通じて、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導」が求められている。今回の改訂は、平成18年の教育基本法改正で「豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」、「伝統の継承」、「新しい文化の創造」を目指す教育の推進等が規定されたことや、平成20年の中央教育審議会答申において、言語は「コミュニケーションや感性・情緒の基盤」とし、「伝統や文化に関する教育の充実」が改善事項として示されたことに関連する。

以上のような現状を踏まえ、実際の生活で古典を使用することで形成された言語文化を享受し、価値を捉え、現代の自分たちの人生を豊かなものにしようとする態度を育てることが大切だと考える。そのためには、言語文化に対して関心をもち、日本人としてのものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする授業の実践が求められている。私は、昨年度に、「伝統的な言語文化」を意識し、関連性の高い古文と漢文とを読み比べる言語活動を取り入れた「読むこと」の単元を実践した。生徒から「複数の文章のつながりがみえると面白い。」という反応があった。ここでの成果は、複数の教材を関連付けて読むことで、一つの作品では味わえない深い読みを実感できたことである。また、学習課題を設定し、それを解決していく過程で、読む能力が身に付いた実践であったとも考える。このことを通して、私は、言語活動を工夫した単元を構想することによって、生徒自らが古典を受け入れる学習指導の可能性を見いだした。本研究においては、「古典B」の目標である「古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる」ことができる学習指導の在り方を明らかにしたい。

そこで、「古典B」の学習指導において、現代を生きる高校生の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマに基づき、複数の古典教材による単元を構想することで、生徒が主体的に言語活動に取り組み、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して、古典を読む能力を身に付けることができる考え、本主題を設定した。

## II 研究の構想

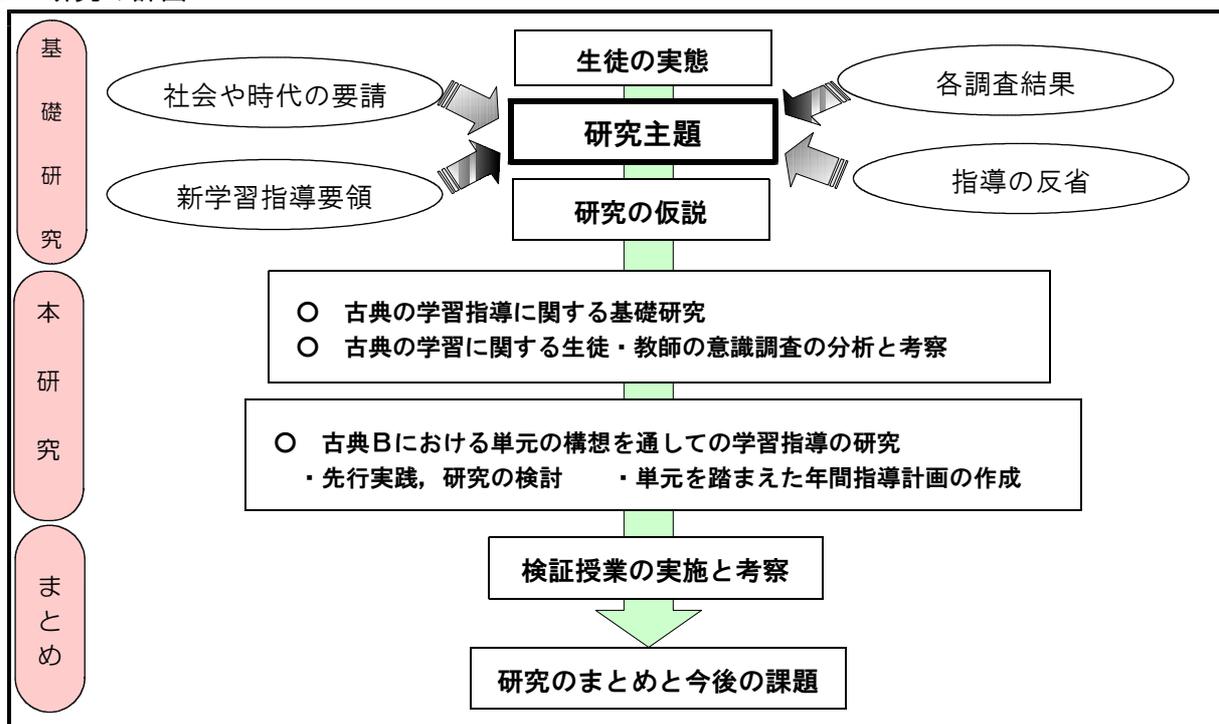
### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領等を基に、「古典B」における学習指導の在り方を明らかにする。
- (2) 生徒と教師を対象とした実態調査の分析から、古典の指導における課題を明らかにする。
- (3) 学習テーマに基づいた単元を考え、学習課題の解決を図る指導の在り方を明らかにする。
- (4) 検証授業の分析を基に、研究の成果と今後の課題を明らかにする。

### 2 研究の仮説

「古典B」の指導において、現代の生活と関連付けた学習テーマに基づいた複数の古典教材による単元を構想して実践するならば、生徒が主体的に言語活動に取り組み、古典を読む能力を身に付けることができるであろう。

### 3 研究の計画



## III 研究の実際

### 1 研究主題に関する基本的な考え方

#### (1) 高等学校における古典の学習指導について

新学習指導要領における高等学校国語科の目標は、「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる」と示されている。今回の改訂における改善の具体的事項の中に、「我が国の言語文化を享受し、継承・発展させる態度の育成」と明記されている。

これを踏まえて、新学習指導要領に、新しく〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が設けられた。そこで「伝統的な言語文化」とは、次のように大きく三つに分類されている。

- 我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり文化としての言語
- それらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活
- 上代から現代までの各時代にわたって、表現、受容されてきた多様な言語芸術や芸能など

本研究においては、古典を言語芸術として考えることとする。

「古典B」は、これまでの「古典」の内容を改善した科目であり、「古典A」は、「古典購読」の内容を改善した科目である。「古典B」は、新学習指導要領では共通必履修科目である「国語総合」の3領域1事項のうち、「読むこと」の古典分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させた選択科目である。「古典B」の目標は、古典を読む能力を高めることと、古典についての理解や関心を深めることである。また、「古典A」の目標は、伝統的な言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成することである。『高等学校学習指導要領解説 国語編』において、「古典A」と「古典B」の特色は図1のように示されている。本研究では、伝統的な言語文化としての古典を読む能力の育成を目指そうと考えた。「古典B」の指導において、生徒自身が伝統的な言語文化としての古典を現代の生活にも通じるものだと感得し、そのことによって主体的、課題解決的

な学習につながる単元を構想したいと考える。

古典A	古典B
○ 読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関することを中心	
<b>目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な言語文化に対する理解を深める</li> <li>・ 生涯にわたって古典に親しむ態度を育成</li> </ul>	<b>目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典を読む能力を高める</li> <li>・ 古典についての理解や関心を深める</li> </ul>
<b>主な内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語文化について探究する</li> <li>・ 古文と漢文のいずれか一方を教材とした指導でも可</li> </ul>	<b>主な内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読む能力を高める</li> <li>・ 古文と漢文の両方を指導</li> <li>・ 文語文法も指導</li> </ul>
<b>教材</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の文章や作品、文種や形態でまとまりのあるもの中心</li> <li>・ 古典に関する近代以降の文章を必ず含める</li> </ul>	<b>教材</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語文化の変遷についての理解に資するもの</li> </ul>

図1 「古典A」と「古典B」

単元の学習によって、古典を読む能力を育成するために、「古典B」において伝統的な言語文化としての古典の学習を実践したいと考える。

(2) 「古典B」の単元構想について

「国語総合」や「古典A」における古典の指導には、授業時数や教材の点で限りがある。それに対して「古典B」では、ある程度幅広く古典を取り上げ、言語文化の変遷について理解を深める指導ができる。学習指導要領解説には「古典B」の性格が次のように示されている。

「古典B」において様々な教材を系統的に取り上げ、ある程度幅広く指導することは、古典を読む能力を養い、古典についての理解や関心を深める上で効果的であるとともに、古典の価値についての理解や関心を深める上で効果的であるとともに、古典の価値について考えを深め、我が国の文化の特質、我が国の文化と中国の文化との関係などについて考える上でも有効である。

多くの古典を幅広く指導するために、教材編成を工夫することが必要になる。

ア 学習テーマ

本研究における学習テーマについては、伝統的な言語文化としての古典を、現代と関連付けながら幅広く生徒に読ませるために設定することとする。生徒自身の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマに基づいて、単元を貫く課題解決的な言語活動が展開される単元を構想したいと考える。同一の複数の教材を扱うことによって、読みの観点を明確にした上で、多様な視点から学習できる単元の構想である。<sup>\*1)</sup>世羅(2001)は「学習テーマ」について、大村はまの研究を基に、高等学校古典における「〈学習テーマ〉を軸とした単元の学習についての視点と方法」を次のように述べている。

「学習者が主体的に古典に働きかけ、古典との豊かな対話を図る指導」を実現するためには、〈学習テーマ〉を軸とした古典の単元の学習を実践するのが最適の方法であると考え。学習者の興味・関心や問題意識を踏まえた〈学習テーマ〉を設定して、〈学習テーマ〉を軸とした古典の教材編成を行い、学習者が〈学習テーマ〉の解決をめざして、主体的に読む・書く・話す・聞く言語活動を展開していく過程で、読む・書く・聞く言語能力を総合的に育むという古典の単元の学習が、今後、小・中・高等学校で広く実践されることが求められる。

また、大村はまは、国際児童年の昭和54年の秋に、中学1年生を対象として、単元「古典の中に見つけた子ども」という実践をしている。「古典の中にはどのような子どもたちが登場しているか」という学習テーマを設定して、「土佐日記」「枕草子」「源氏物語」「堤中納言物語」「更級日記」「宇治拾遺物語」「平家物語」「徒然草」「義経記」という古典作品九編から、子どもの登場する場面を取り上げて、204頁にも及ぶ傍注資料（原文の左右に傍注を

\*1) 世羅博昭 論考「〈学習テーマ〉を軸とした古典教材編成の視点と方法」2001

付けた資料)が作成されている。生徒が、音読・朗読・暗唱を繰り返しながら、多くの古典作品の中に見られる子どもの姿を読み比べて、楽しく古典学習に取り組んでいる様子が分かる実践である。

このように、「学習テーマ」は、生徒の興味・関心や問題意識を踏まえて、多くの古典に触れる機会をもたせながら、「学習テーマ」に対する生徒の認識を深化・拡充させるために複数の古典教材を編成する単元の学習指導の中で、古典を読む能力の育成を図るものである。

「学習テーマ」を軸とした単元を構想することは、古典についての理解や関心を深めさせる上で効果的であるとともに、古典を学習する価値についての考えを深め、我が国の文化の特質、我が国の文化と中国との関係などについて考えさせる上でも有効である。

#### イ 教材編成の方法

「古典B」の単元の構想において、教材をどのような視点で編成すれば効果的であるかについて考察する。世羅は、「〈学習テーマ〉を軸とした古典教材編成の視点と方法」の論考の中で、〈学習テーマ〉を軸とした古典の教材編成の方法について次のように述べている。

学習者の興味・関心や問題意識を踏まえた〈学習テーマ〉を設定し、学習テーマに対する認識の深化・拡充を図ることを目指して、ある程度まとまった分量の教材化を行い、課題解決型の学習を展開していくようにした方が、学習者の意欲も持続させやすいし、また学習効果もあげやすいであろう。中・高等学校の実践の場において、〈学習テーマ〉を軸とした古典の教材編成を行い、学習者が〈学習テーマ〉に対する認識の深化・拡充を目指して、主体的、目的的に取り組む古典学習を創造したいものである。

世羅は、特定の〈学習テーマ〉を設定し、その〈学習テーマ〉に対する認識の深化・拡充を図ることを目指して、同じ古典作品の複数の章段を取り上げたり、異なる古典作品を読み比べさせたりといった教材編成の方法について述べている。

世羅の先行研究を基に、私は次のような教材編成の方法について考えた。古典を幅広く指導するためには、複数の文章を教材として取り上げて編成することが望ましい。複数の文章を教材とする方法として、次の表1のA・Bが考えられる。

表1 「古典B」における教材編成の方法

A 同一の古典作品	古典の文学(物語・説話・詩歌・随筆・日記・史話・漢詩など)
	古典の評論(文芸論・歌論・俳論・芸能論など)
B 異なる古典作品	古典の文学(物語と他の物語・物語と説話・漢詩と日本の古典など)
	古典の評論(歌論と他の歌論・俳論と他の俳論など)
	古典の文学と評論(物語と文芸論など、様々な組み合わせ)

年間指導計画には、これらの教材を意図的に組み込んでいく必要がある。なお、本研究においては、同一の古典作品の教材編成による単元を構想することとした。古典の文学(物語)として『源氏物語』を、古典の評論(芸能論)として『風姿花伝』を取り上げる。

検証授業Ⅰでは、古典文学である『源氏物語』の複数の章段から、一人の登場人物「六条の御息所」の心情についての読みを重ねるという教材編成である。特定の人物の心情を読み取ることで、生徒がより物語文学の世界に入り込めて、現代を生きる自分に関連付けられると考えた。検証授業Ⅱでは、古典評論である『風姿花伝』の複数の章段から「稽古」と「時分」について読み取り、能の「花」について考えさせる教材編成である。能楽論というジャンルを取り上げたのは、能の「花」を探る中で達人の生き方に学び、生徒自身が自分の生き方に関連付けて読みを深めるためである。

検証授業Ⅰ・Ⅱにおいて、違うジャンルで同一古典の複数の章段から教材を取り上げることで、生徒が現代と関連付けて主体的、課題解決的に学習に取り組めるように編成した。

## 2 古典の学習に関する生徒の意識調査の分析と考察

### (1) 古典の学習に関する意識調査の分析と考察

(アンケート実施 平成23年6月 対象 県立 指宿高等学校 全校生徒 362人)

#### ア 「古典が好きか」に関する意識調査

「古典が好きか」という質問に対して、全学年で肯定的回答が49.7%であり、否定的回答が50.3%であった。それぞれを選んだ理由としてaからi（三つまで複数回答可）を質問した。図2から、特に生徒の反応が見られたのはaからdの4項目であることが分かる。ここでは、aからdを踏まえた上で本研究の在り方について述べる。

肯定的回答と否定的回答のいずれも、内容の共感に関するaの理由が最も高かった。共感を伴いながら古典に好意をもたせる単元を構想する必要があると考える。本研究では、そのような単元を意図的に位置付けた「古典B」における高等学校の2・3年次の年間指導計画の在り方について考察する。

次に高い理由は、辞書の活用に関するbである。言語的に抵抗のある古典を読むためには、辞書を活用して語句の意味や用法などに着目させることが効果的である。本研究では、辞書を用いて傍注資料を自分で作成させることの有効性を探る。

cは、昔の言葉の特徴に関する理由である。古典の学習において言語感覚を練磨させるためには、文章中に用いられている古語の特徴を踏まえながら読ませることが望ましい。本研究では、学習の手引の活用の在り方を工夫して古語に着目させることとする。

dは、授業の在り方に関する理由である。育成すべき言語能力を生徒に身に付けさせるためには、学習過程の各段階の授業をいかに計画すべきか、単元を貫く課題解決的な言語活動をいかに行わせるかということをはっきりとすることが大切であるとする。

#### イ 「古典は大切か」と「古典の学習は将来役に立つか」に関する意識調査

「古典は大切か」という質問に対しては、全校生徒の80%が「大切」、「どちらかと言えば大切」と答えた。その理由については、受験のために必要だからと答えた者がほとんどであった。図3から、「古典の学習は将来役に立つか」という質問に対しては、全校生徒の43%が将来役に立つと考えていることが分かった。その理由としては、「人間の在り方を考えることができる」(24%)と「自分の生き方の参考になる」(19%)を選んでいった。

この調査からは、古典の学習が将来役に立たないと考えながら受験のため大切だとする生徒がいることが分かった。本研究では、検証授業Ⅰ・Ⅱともに古典を自分と関連付けて読ませて、人間の在り方や自分の生き方を考えさせることとする。

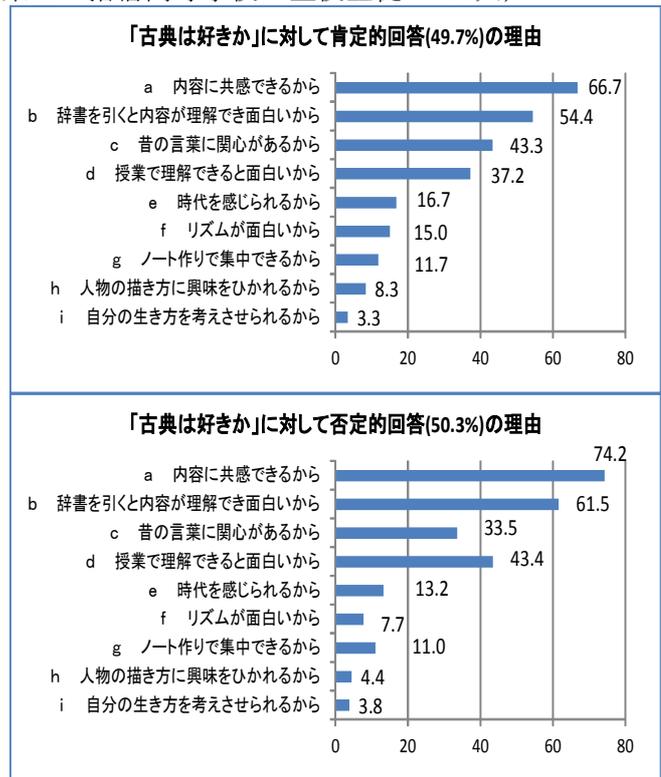


図2 「古典は好きか」の意識調査（全校生徒）

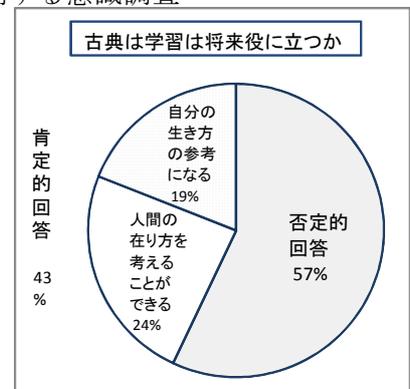


図3 「古典の学習は将来役に立つか」の意識調査

## (2) 調査結果から設定した研究の視点

今回の生徒の意識調査から集約した視点は次の4点である。

- 視点1** 年間指導計画の作成（年間を通して古典に共感をもたせながら学習させるため）  
**視点2** 単元を貫く言語活動の具体化（主体的に取り組ませながら課題を解決させるため）  
**視点3** 傍注資料の作成指導（言語的抵抗をなくし辞書を引かせながら内容を理解させるため）  
**視点4** 学習の手引の活用指導（古語に着目させながら読みを深めたり広げたりさせるため）

**視点1**においては、年間指導計画を作成し、生徒に身に付けさせたい力を明確にする単元の構想によって、共感を伴いながら古典に興味をもたせる必要があると考える。そのような単元を領域や事項との十分な関連を図りながら、年間指導計画に配置することが肝要である。その中で、評価の観点や評価規準について考える必要がある。

**視点2**においては、単元を貫く課題解決的な言語活動によって生徒が主体的に学習に取り組むことができると考える。そのために、言語活動例の具体化についてその手順を考えたり、実際に単元の指導計画モデルを作成したりすることが重要であると考えます。

**視点3**においては、主体的な古典の学習において重要なのは、辞書の効果的な活用である。言語的抵抗のある古典を読むためには、辞書を活用して重要古語を理解し、そのことが読みの深まりにつながるように指導することが有効である。本研究では、傍注資料を自分で作成させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用できる主体的な学習について考察する。

**視点4**においては、古典の学習において言語感覚を練磨させるために、文章中の古語の表現の特徴を捉えた上で、根拠を明らかにして読ませる必要がある。本研究では、学習の手引の活用によって、読みの観点を明確にし、根拠となる古語に着目させることとする。

本研究では、古典を自分と関連付けて親しませながら読ませて、人間の生き方や考え方について発展的に考えさせたいと考える。そのために学習テーマを設定し、教材の編成を行った上でさらに指導の工夫・改善が必要であると考えます。

古典を学ぶ意義について世羅は、「現代を生きる自らの中に歴史性を発見するとともに、新しい文化を創造していく際の基礎的な能力と態度を養うところにある。この意義を学習者に感得させるためには、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた『伝統的な言語文化』に親しむ態度を育成させることが不可欠である。」と述べている。

四つの視点を基に生徒に「古典の学習は将来役に立つ」ものであると古典を学ぶ意義を感得させ、生徒が共感をもって取り組むことができる単元の学習を計画し、実践したいと考える。

## 3 「古典B」の学習指導

### (1) 年間指導計画の作成について

「古典B」の年間指導計画を作成するに当たっては、次のように学習指導要領を意識する必要がある。

まず、内容の(1)指導事項のアからオを踏まえて、単元の目標や評価規準を設定する。次に、設定した単元の目標や評価規準にふさわしい言語活動を、内容の(2)言語活動例のアからエより取り上げる。さらに、古文及び漢文の両方を取り上げ、一方に偏らないようにして、単元にふさわしい教材を選定する。

- ア それぞれの単元の目標と評価規準を設定する  
イ アにふさわしい言語活動例を取り上げる  
ウ ア、イにふさわしい教材を選定する

以下、この3点について述べる。

ア 単元の目標と評価規準の設定

新学習指導要領では共通必修科目である「国語総合」の評価の観点は、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」の5観点である。「古典B」は、「国語総合」の3領域1事項のうち、「C読むこと」の古典分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させている。そのため、「古典B」の評価の観点は、表2の「関心・意欲・態度」、「読む能力」、「知識・理解」の3観点となる。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、「知識・理解」で評価することとなる。

表2 「古典B」の評価の観点

観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
趣旨	古典を読む力を進んで高めようとするとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。

学習指導要領によると、「古典B」の内容の(1)指導事項は次の通りである。

ア	古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
イ	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
ウ	古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
エ	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。
オ	古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。

指導事項アからオと「読む能力」、「知識・理解」との対応は、次の表3の通りである。

表3 「古典B」の評価の観点と指導事項の対応

評価の観点	指導事項（内容の(1)）
読む能力	イ、ウ、エ
知識・理解	ア、エ（前段）、オ

なお、「関心・意欲・態度」は、全ての指導事項に関わる。「古典B」の指導事項に基づく評価規準は、次の表4の通りである。

表4 「古典B」の指導事項に基づく評価規準

読む能力	知識・理解
	ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解している。
イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえている。	
ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	
エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察している。	エ（前段）古典の表現の特色について理解している。
	オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。

年間指導計画には、内容の(1)指導事項を踏まえて、「読む能力」か「知識・理解」のいずれかについての単元の目標と評価規準を設定したい。ただし、当該単元を実施する際には、他の評価の観点についても設定することとする。

#### イ 取り上げる言語活動例の決定

単元の目標や評価規準に関連した言語活動例を学習指導要領から取り上げる。話したり、聞いたり、話し合ったり、書いたりする多様な言語活動の中で、より効果的に「読むこと」の指導を行い「読むこと」の授業改善を進めることによって、古典を読む能力を育成できると考える。「古典B」の内容の(2)言語活動例は次のとおりである。

- ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。
- イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。
- ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。
- エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。

「古典B」の内容の(2)言語活動例のアからエについて、「報告する」、「説明する」、「話し合う」、「発表したり、文章にまとめたりする」といった言語活動例が取り上げられている。「読むこと」の言語能力の育成において、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の言語活動による、「読みの深まり」の重要性が言語活動例においても求められている。

#### ウ 取り上げる教材の選定

「主な単元の目標」「主な評価規準」を設定し、学習指導要領の言語活動例から「言語活動」を設定した上で、取り上げる教材を選定する。下に記された学習指導要領における「古典B」の教材選定の具体的な観点と「国語総合」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における読むことの指導を通しての伝統的な言語文化に関する事項の指導を十分に考慮する必要がある。言語文化としての古典に親しませるためには、教科書にある教材を中心としながら、複数教材を編成して指導に当たりたいと考える。もちろん、古典を読む能力の育成を図る上で、教科書を中心教材とする単一教材での単元の学習もある。

「古典B」は、「国語総合」の3の(6)のイに示した古典の教材と、「古典A」の3の(3)のウに示した教材編成の具体的な観点についてそれぞれ留意する必要がある。

#### ウ 教材選定の具体的な観点

- (ア) 古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。
- (イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代のものの見方、感じ方、考え方についての理解を深めるのに役立つこと。
- (ウ) 様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと。
- (エ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。
- (オ) 現代の国語について考えたり、言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。
- (カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。

なお、本研究では、生徒に付けたい力を考慮しながら「古典B」の単元を構想するためには、年間、あるいは複数の年数による科目の指導と評価との関連を踏まえ、計画的に実施することが肝要であると考え、二年間の指導計画を作成した。

年間指導計画の「主な単元の目標」の設定は、新学習指導要領の「古典B」の「3内容」(1)指導事項アからオに基づく。そこで、それぞれの指導事項の学年別項目数を右の表5にまとめた。指導事項エに関しては、エの前段のみに基づいた項目と、エの全てに基づいた項目とを分けて設定した。

また、(2)言語活動例アからエの学年別項目数も記した。二年間で履修することとし、高校2年次と高校

表5 学習指導要領の学年別項目数

	高2	高3	計
3(1)ア	4	2	6
イ	5	3	8
ウ	5	7	12
エ前	1	1	2
エ	2	4	6
オ	3	2	5
3(2)ア	7	4	11
イ	2	2	4
ウ	8	10	18
エ	3	3	6

3年次のそれぞれの項目数と、二年間の累計をそれぞれ示した。

これらを踏まえて、高等学校2・3年次における「古典B」の年間指導評価の計画を次の表6・7にまとめた。本研究では、現行学習指導要領の「古典」の教科書を基に、「古典B」の年間指導計画を作成した。

表6 「古典B」の年間指導計画 (高等学校2年次〈○：古文／●：漢文〉)

科目「古典B」	単位数(時間) = 3単位(105時間)	指導学年(3学年)	教科書「精選 古典」(大修館書店)			
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
月	単元名	時	主な単元の目標(指導事項)	主な評価規準	言語活動例	教材
4	○古語の響きを知る	3	登場人物の心情などの表現の特色について理解している。(1)エ前段	古文の文体の優美さや詩歌の華やかな修辞技巧など古典表現のよさを理解しようとしている。	(2)ウ	『十訓抄』(大江山)
	●故事成語を現代に結び付ける	3	故事を知り、故事成語への理解を深める。(1)ア	故事成語の背景を理解し、現代にながて、用いようとしている。	(2)ア	「画竜点睛」・「塞翁馬」
	○随筆文学に表れた古人の感性に触れる	3	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(1)ウ	季節の移り変わりや自然のよさを的確に読み取り、日本文化特有の美意識や無常観について考えを深めようとしている。	(2)ウ	『徒然草』(花は盛りに)・『枕草子』(木の花は)
5	●英雄と側近たちの人物像に迫ろうⅠ	8	展開や表現に即して、人物像を捉え、心情を読み取ることができる。(1)イ	展開や表現を把握し、心情を読み取るようとしている。	(2)ウ	『史記』(鴻門の会)
	○歴史物語の特徴を知る	5	表現を理解し、内容や心情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(1)ウ	和歌や漢詩を中心に、古文のリズムを味わい、登場人物の心情を的確に読み取って、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『大鏡』(道真左遷・競べ弓)
6	●漢詩の世界に触れる	3	中国と日本の漢詩文を読んで、古典に用いられている語句を理解する。(1)ア	漢文の修辞法を理解し読み味わい、日本の漢詩文との違いを理解している。	(2)ア	杜甫・李白 夏目漱石
	○王朝の日記を読む	4	日記文学を読んで、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(1)ウ	日記文学に表れた古人の生き方や考え方など理解し、表現を根拠に読みを深めようとしている。	(2)ウ	『土佐日記』(羽根)・『更級日記』(あこがれ)
	●英雄と側近たちの人物像に迫ろうⅡ	8	内容を構成や展開に即して、人物像を捉え、心情を読み取ることができる。(1)イ	古語を理解し、展開や表現に即して、人物像を捉え、心情を読み取っている。	(2)ウ	『史記』(項王の最期)
7	○登場人物の心情を表現に即して探る	8	構成や展開に即して、表現を根拠に人物関係や人物像を捉え、心情を読み取ることができる。(1)イ	源氏を取り巻く女性像を読み比べて、主体的に読み、それぞれの心情を表現に即して読み取ろうとしている。	(2)イ	『源氏物語』(桐壺・藤壺・若紫)
9	●作品の表現の巧みさについて報告する	8	中国の文化に触れ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(1)ウ	辞書を用いて表現を理解し、中国の文化について理解を深めようとしている。	(2)ウ	『桃花源記』・『捕蛇者説』
	○言語文化の変遷について理解を深めるⅠ	5	各時代の和歌に用いられた言葉を比較し、古語を理解する。(1)ア	内容を的確に読み取り、語句の意味を理解している。	(2)ア	『万葉集』・『古今和歌集』等
10	●『論語』を読み味わおう	6	古典作品の価値について考える。(1)エ	課題を設定し、成果をまとめて作品の価値を理解しようとしている。	(2)エ	『論語』
	○言語文化の変遷について理解を深めるⅡ	5	各時代の和歌に用いられた言葉を比較し、古語を理解する。(1)ア	内容を的確に読み取り、語句の意味を理解している。	(2)ア	『梁塵秘抄』・『閑吟集』
11	●「性善説」と「性悪説」の相違点を読み取る	5	古典に表れた様々な思想や感情を的確に捉えることができる。(1)イ	「性善説」と「性悪説」の内容を理的に捉え、読み比べて、自分の考えを深めようとしている。	(2)イ	孟子・荀子の著
	○俳諧を通して伝統的な言語文化に親しむ	4	我が国の伝統文化への理解を深める。(1)オ	日本特有の美意識や無常観について考えを深めたり、読み比べたりして伝統文化への理解を深めようとしている。	(2)ア	松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶
12	●道家の無為自然の思想の特徴について読み取る	5	思想の特徴を捉え、作品の価値について考察することができる。(1)エ	語句の意味を理解し、展開や表現に即して、思想の特徴を読み取り、作品の価値について考察している。	(2)エ	老子の著
	○俳論書の特徴を知り、言葉を選ぶ	5	俳論書の内容を的確に捉え、自分の心情を豊かにすることができる。(1)ウ	感情を的確に捉え、自分の心情を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『去来抄』(此木戸や)
1	●表現に即して、法治思想を理解する	5	我が国の文化の特質に強く影響してきた中国の思想についての理解を深めることができる。(1)オ	漢文の修辞法を理解し、我が国の文化と中国の文化との関係について読み深めようとしている。	(2)ア	韓非子の著
2	○近世の浮世草子を読み、中世文学との違いを理解する	4	庶民文学の内容を構成や展開に即して捉えることができる。(1)イ	庶民文学に表れた町人の生き方や考え方など、表現を根拠に読みを深めている。	(2)エ	『西鶴諸国ばなし』(大晦日は合はぬ算用)
3	●我が国の漢詩に親しむ	8	我が国の文化と中国との関係について理解を深めることができる。(1)オ	日本漢文の作品の価値を認識し、伝統と文化を理解しようとしている。	(2)ア	夏目漱石・広瀬淡窓・月性

表7 「古典B」の年間指導計画 (高等学校3年次〈○:古文／●:漢文〉)

科目「古典B」	単位数(時間) = 3単位(105時間)	指導学年(3学年)	教科書「精選 古典」(大修館書店)			
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
月	単元名	時	主な単元の目標(指導事項)	主な評価規準	言語活動例	教材
4	○中世の説話に描かれた人々の生き方、考え方を感得する	3	説話に描かれた人物の生き方や考え方を語句を手掛かりに的確に読み取ることができる。(1)ア	文章中の語句を手掛かりに、古典に表れた生き方や考え方を読み深めようとしている。	(2)ア	『十訓抄』(朱雀門)・『今昔物語集』(馬盗人)
	●漢文の逸話や寓話から話の本質を読み取る	4	寓話から話の本質を読み取り、故事成語への理解を深めることができる。(1)ア	逸話や寓話の文の構造を理解し、話の本質を理解しようとしている。	(2)ア	逸話と寓話「不死之薬」等
	○随筆文学に表れた古人の感性を読み味わう	4	作者の人柄やその感性の特質を捉えることができる。(1)ウ	随筆の事実に基づいた、深い自己省察を語る内容から、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	(2)ウ	『枕草子』(上にさぶらふ御猫は)
5	●中国の歴史書の最高傑作として『史記』を読み味わう	8	中国の歴史書を読んで、歴史観や人間観を知り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。(1)ウ	『史記』を読んで、思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『荊軻』
	○非凡な歴史観を感得し、特徴を知る	4	歴史物語独特のリズムを読み味わい、表現を理解し、内容や心情を読み取ることができる。(1)ウ	政権獲得や栄華といった歴史的背景を鑑み、古文のリズムを味わい、心情を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『大鏡』(肝だめし)
6	●漢詩の名作を深く読み味わう	3	古体詩のリズムを味わい、時代や作者について考察し、思想を理解し、作品の価値を考察することができる。(1)エ	漢文の修辞法を理解し、伝統的な言語文化としての古典の価値を考察しようとしている。	(2)ウ	陶潜・杜甫・李白・白居易
	○女流文学として日記を読む	5	女流日記文学から宮廷生活を感得し、その特徴を理解する。(1)エ前段	女流日記文学に表れた表現の特色を理解し、表現に即して読み味わおうとしている。	(2)ウ	『讀史記』(鸚)・『和泉式部日記』(香る香こ)
	●作品を朗読し、表現の巧みさを味わう	8	展開や表現に即して、人物像を捉え、心情を読み取る。(1)イ	語句を理解し、展開や表現に即して人物像を捉え、心情を的確に読み取ろうとしている。	(2)エ	『師説』(韓愈)
7	○六条御息所物語を読む	8	『源氏物語』の表現を根拠に登場人物の心情を読み比べ、ものの見方や感じ方、考え方を広げることができる。(1)ウ	複数の場面における登場人物の心情を捉え、関連付けて、ものの見方や感じ方、考え方を広げようとしている。	(2)ウ	『源氏物語』(葵・御法)
9	●諸子百家の「使命」・「無為」・「愛」の思想を理解する	8	中国の思想が、我が国に及ぼした影響や文化の違いについて理解を深めることができる。(1)オ	思想を比較し、我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めようとしている。	(2)ア	『論語』
	○我が国の文化の特質について理解を深める	5	歌論書を読み、ものの見方や感じ方、考え方を広げることができる。(1)ウ	伝統的な言語文化としての歌論書を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『古今和歌集(仮名序)』(やまと歌)
10	●『長恨歌』を読み味わい、引用された日本の古典と重ね読みをするⅠ	6	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、後生に引用される作品の価値について考察することができる。(1)エ	作品の価値について課題を設定し、我が国と中国の文化との関係について理解を深めて、まとめようとしている。	(2)エ	『長恨歌』と『源氏物語』(桐壺)
	○能の秘伝から生き方を探る	5	『風姿花伝』に記された秘伝を、表現の特色を理解して読み味わい、現代にも通じる人生観を捉えることができる。(1)エ	『風姿花伝』にみられる人生観に着目して内容を読み味わい、書き換えることによって、自分の生き方について考えようとしている。	(2)ウ	『風姿花伝』(因果の花)
11	●『長恨歌』を読み味わい、引用された日本の古典と重ね読みをするⅡ	5	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、後生に引用される作品の価値について考察することができる。(1)エ	作品の価値について課題を設定し、我が国と中国の文化との関係について理解を深めて、まとめようとしている。	(2)エ	『長恨歌』と『更級日記』(七月七日)
	○中国の小説や日本怪異小説を通して、言語文化に親しむ	5	我が国の伝統文化への理解を深めつつ、中国の文化との関係性についても理解を深めることができる。(1)オ	伝統や文化について考えを深めたり、怪異小説の内容を的確に捉えたりしようとしている。	(2)ア	『雨月物語』(夢窓の鯉魚)
12	●中国と日本の小説を読み比べるⅠ	7	展開や表現に即して、論旨を的確に捉え、それぞれの特徴を読み取ることができる。(1)イ	それぞれの小説を読み比べて、展開や表現に即して、相違点を読み取ろうとしている。	(2)イ	『人虎伝』と『山月記』
1	○軍記物の特色を理解し、和漢混交体のリズムを味わう	6	軍記物の内容を読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方について豊かにすることができる。(1)ウ	内容を的確にとらえ、語り物・和漢混交体の特色を読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	(2)ウ	『平家物語』(能登殿最期)
2	●中国と日本の小説を読み比べるⅡ	6	展開や表現に即して、論旨を的確に捉え、それぞれの特徴を読み取ることができる。(1)イ	それぞれの小説を読み比べて、展開や表現に即して、相違点を読み取ろうとしている。	(2)イ	『人虎伝』と『山月記』
3	○江戸時代の随筆を読んで、古人の考え方に学ぶ	5	江戸時代の随筆を読んで人間、社会などに対する思想や感情を的確に捉え、心情を豊かにすることができる。(1)ウ	『玉勝間』を読んで、作者の人生観・思想・学問のあり方を通して、自分の生き方に生かそうとしている。	(2)ウ	『玉勝間』(師の説になづまざること)

(2) 単元を貫く言語活動の具体化について

「古典B」において単元を貫く言語活動を具体化するためには、手順を踏まえて行う必要がある。鹿児島県総合教育センター<sup>\*2)</sup>（以下「教育センター」という。）では、国語科における「言語活動の具体化の手順」を平成23年3月発行の研究紀要（第115号「自ら考え判断し、表現できる力をはぐくむ学習指導の在り方に関する研究」）で示している。本研究においては、それを引用して参考にするので、「古典B」における言語活動例を具体化する手順を明らかにすることとする。

「古典B」は読むことを中心とした科目である。受け身的になりがちな読むこと中心の学習に、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の言語活動を意識的に取り入れて、生徒がより主体的に取り組めるような学習活動を工夫する必要がある。単元の学習において、単元を貫く言語活動を設定することは、生徒に興味・関心をもたせながら、古典を読む能力の育成を図る学習指導において重要な課題である。

ア 国語科における言語活動例の具体化の手順

国語科における、学習テーマに基づいた単元の学習において、生徒の主体的な学習課題の解決のためには、言語活動の充実を図る必要がある。教育センターでは、言語活動を具体化するための要素として右の四つを挙げている（図4）。

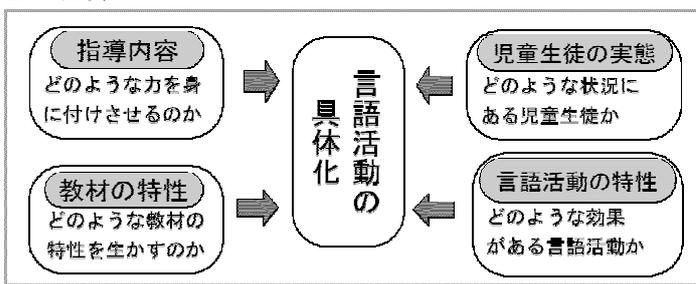


図4 言語活動を具体化する際の要素

また、教育センターは、「指導内容」・「教材の特性」・「児童生徒の実態」・「言語活動の特性」の四つの要素を踏まえた上で、学習指導要領に示されている言語活動例を具体化するための手順として下の六つを示している（表8）。この手順を参考に、「古典B」における言語活動例の具体化を図る単元を構築することとする。

表8 言語活動例の具体化の手順

流れ	内 容
ステップ1	単元で指導する指導事項の確認（指導内容） ○ 年間指導計画から、単元で指導する指導事項を確認する。 ○ 学習指導要領の指導事項と単元の学習のねらいとの関連を明確にし、単元の目標を設定する。
ステップ2	身に付けさせたい力の具体化と重点化（指導内容） ○ 指導事項を分析し、具体的にどのような力を身に付けさせる必要があるのか（どのようなことができ、分かるようになればよいのか）を明確にする。 ○ 本単元で重点的に指導する内容を決める。
ステップ3	児童生徒の実態の把握（児童生徒の実態） ○ 学習に対する関心・意欲・態度を把握する。 ○ 身に付いている（いない）言語能力を把握する。 ○ これまで行ってきた言語活動の経験を把握する。
ステップ4	教材・資料・教具等の選定（教材の特性） ○ 教科書教材を中心に学習の目標達成に適切な教材を選定する。 ○ 学習の効果をあげる補助教材（例えば、比べ読みをする教材など）を選定する。 ○ 学習効果をあげる資料や教具等の選定を行う。
ステップ5	効果的な言語活動の設定（言語活動の特性） ○ 言語活動例の具体化を図る。児童生徒の実態等に応じて、例示された活動以外の言語活動も工夫する。 ○ どのような言語活動が「身に付けさせたい力」につながるか検討する。
ステップ6	指導計画の作成 ○ ステップ5までの内容を基に、単元の指導計画を作成する。 ○ 指導計画を基に、1単位時間の学習計画を立てる。 ○ 学習に必要なワークシートの作成や、発問、板書の計画を立てる。

\*2) 鹿児島県総合教育センター 研究紀要 第115号 平成23年3月

## イ 「古典B」における言語活動例の具体化の手順

本研究における「古典B」の単元の構想は、現代を生きる高校生の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマに基づいた古典の教材を編成することで、伝統的な言語文化としての古典を読むことに主眼をおいた手順を考察する。表9は「古典B」における言語活動を具体化する手順である。

表9 「古典B」における言語活動を具体化する手順

項 目	内 容
1 単元の目標の設定 〈指導内容〉	・ 年間指導計画を踏まえて、「古典B」の指導事項を確認して単元の目標を3観点から設定する。
2 単元の評価規準の設定 〈指導内容〉	・ 「単元の目標」と「年間指導計画の評価規準」を踏まえて、単元で付けさせたい力を明確にして、観点別に具体的に作成する。
3 生徒の実態の把握 〈生徒の実態〉	・ 生徒の実態を踏まえて、古典が現代とどう関わるかといった、現代の生徒の興味・関心や問題意識に関連した学習テーマを設定する。
4 教材の編成 〈教材の特性〉	・ 教科書教材を中心に、補助教材を編成する。物語では特定の人物が描かれた複数の場面を取り上げたり、評論では筆者の主張における複数のキーワードを取り上げたりする。
5 傍注資料と学習の手引の活用 〈教材の特性〉	・ 原文の横に、古語の現代語訳を付けさせたり、文法事項を補充させたりして、古語に着目させ辞書を活用させて、傍注資料を作成させる、傍注資料を検討する。 ・ 古語に着目させて読みの観点を明確にした上で、本文中の表現に即して内容を的確に読み取らせる手引となる、学習の手引を工夫する。
6 効果的な言語活動の設定 〈言語活動の特性〉	・ 年間指導計画で取り上げた言語活動例が当該単元の目標にふさわしいかを確認し、言語活動を設定する。
7 単元の指導計画の作成	・ 一時間ごとの授業の実際を計画として、位置付ける。

1の「単元の目標の設定」においては、当該単元の目標を年間指導計画の「主な単元の目標」を踏まえて3観点で設定する。

2の「単元の評価規準の設定」においては、「単元の目標」を踏まえて、単元で付けたい力を明確にして、単元を通して育てたい生徒の姿を見据えて、年間指導計画の「主な単元の評価規準」をさらに具体化する作業を行う。

3の「生徒の実態の把握」においては、生徒の生活に関連した「古典B」における学習テーマを設定することをねらいとして、生徒の興味・関心や問題意識を把握する。伝統的な言語文化として古典を読ませることで、生徒は古典に親しむ過程を通して、古典を読む能力を身に付ける。本研究の単元の構想においては、生徒の興味・関心や問題意識に基づいて年間計画に配置された当該単元を練り上げる必要があると考える。

4の「教材の編成」においては、学習テーマを単元の学習課題として設定でき、課題解決的な学習活動ができることが必要である。また、多くの古典に親しませることから複数の教材を編成することが考えられる。

5の「傍注資料と学習の手引の活用」においては、傍注資料の作成指導と学習の手引の活用指導を検討・工夫する必要がある。傍注資料は、原文のよさを味わい、内容を視覚的に把握しながら音読できるものである。本研究では、傍注資料を理解させ、作成できるよう指導

したいと考えている。学習の手引は、複数の教材を編成する際に、読みの観点を明確にもたせ、それに基づいて課題解決を図らせるものである。この手引を活用することで、生徒は、辞書を活用して古典を読む能力を伸ばすとともに、基礎的・基本的な知識・技能も習得できるようになり、結果として、主体的な学習に導く手立てとなる。

6の「効果的な言語活動の設定」においては、年間指導計画で取り上げた学習指導要領の言語活動例を踏まえ、当該単元に適したものとして検討し練り上げて設定する。例えば、世阿弥の『風姿花伝』を教材とした単元で、学習指導要領の言語活動例「ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠に話し合うこと。」を取り上げた場合、単元を貫く言語活動を「世阿弥の『因果の花』を現代に書き換えて話し合うこと。」と設定することが考えられる。この単元を貫く言語活動は、世阿弥の「因果の花」に関する考え方が書かれている複数の文章を読んだり、読んで考えたことをまとめたり、理解したことを基に書き換えて話し合ったりすることが関連付けられたものである。学習過程の各段階において、読む・書く・話し合うなどの活動が、単元の中でばらばらに行われるのではなく、学習テーマに基づき課題解決的に一貫して行われるようにすることが大切である。この場合、「活動あって学びなし」とならないようにするため、書き換えて話し合うことが目的にならないようにしたいと考える。

7の「単元の指導計画の作成」においては、1から6を踏まえて具体的に当該単元の指導計画を立てる。本研究においては、複数の教材を扱い課題を解決する単元として、学習過程を「導入・展開Ⅰ・展開Ⅱ・展開Ⅲ・まとめ」の流れで構想することとした。展開ⅠからⅢと分けたのは、複数の教材を段階的に関連付けて指導するためである。導入では、学習テーマに基づき単元を貫く言語活動を通して課題を解決していく学習であることを理解させる。生徒自身の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマを基に単元の学習課題を理解することで、単元の最後まで目的意識をもって主体的に学習させることにつながると考える。展開Ⅰでは中心教材（教科書教材）を、展開Ⅱでは補助教材を読ませ、それらを読んで考えたことを展開Ⅲで交流させる。このような展開により、課題の解決に向かって学習を進めさせたい。ただし、展開の仕方については教材の特性に応じて工夫する必要があるので、必ずしもこのようなⅠからⅢの流れであるとは限らないがここではモデルとして示す。まとめでは、学習テーマを踏まえて思考し判断したことを自分の表現でまとめさせる。単元を通して読む能力が身に付いたことなどを認識させたいと考える。

次の表10は本研究における「古典B」の単元の指導計画のモデル（例）である。学習テーマを基に、単元を貫く課題解決的な言語活動が展開されることで、最後に生徒が、学習を通して、思考し、判断したことを表現できると考える。

表10 本研究における「古典B」の単元の指導計画のモデル（例）

過程	学習活動
導入	学習者の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマを設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を設定する。</li> <li>単元の見通しをもつ。</li> </ul>
展開Ⅰ	中心教材を読む。（傍注資料・学習の手引）
展開Ⅱ	補助教材を読む。（傍注資料・学習の手引）
展開Ⅲ	読みを交流する。（中心教材と補助教材を比べたり重ねたりする。）
まとめ	学習テーマを踏まえて、単元の学習をまとめる。
	学習を通して、思考し、判断したことを表現する。

単元を貫く言語活動



(4) 学習の手引について

大西道雄は、次のように述べている。

- 1 学級の児童・生徒の学習実態に即したものであるとともに、児童・生徒の特性を生かすことのできるものとして作成する。
- 2 授業の目標を具体化したものとして作成する。
- 3 教材のもつ教育的価値を生かして作成する。
- 4 児童・生徒の認識・思考過程に即して、その理解・表現能力の形成を促進する学習活動の組織化を図ることのできるものとして作成する。
- 5 授業過程の各分節において、学習者の評価意識を喚起し、自己評価力を高めることができるように作成する。

大西は、目標を具体化する授業の全体構造の中で学習の手引の果たすべき役割を見極めて、上記のような点に留意する必要性を述べている。

これを踏まえて、本研究では、「学習の手引」について、学習テーマに基づいた学習課題の解決を目標として、複数の教材に読みの観点をもたせながら、内容を古典の表現に即して読み取らせ、読みを深めたり広げたりさせるための問いを設けようと考えた。

図6の右に検証授業Ⅱにおける『風姿花伝』の学習課題「能の秘伝から生き方を探る」の解決を図る「学習の手引①」を例に、説明する。(1)・(2)・(3)は、「秘伝」を探る上で重要語となる「稽古」、「時分」、「花」を取り上げる。(1)・(2)・(3)は、「秘伝」を探る上で重要語となる「稽古」、「時分」、「花」を取り上げる。(1)・(2)・(3)を探るために、①・②・③を設けて、重要語を理解するために必要な古語についての問いを設け、具体的な視点を明らかにする。

<p>(1)・(2)・(3)は、「秘伝」を考える上で重要語となる「稽古」、「時分」、「花」を取り上げる。手引①では「時分」、手引②では「稽古」を中心に「花」を考えさせる。</p> <p>(1)・(2)・(3)を探るために、①・②・③を設けて重要語を理解させて必要な古語についての問いを設け、具体的な視点を明らかにする。</p> <p>古語に着目させ、辞書を活用させて、読ませるようにする。</p>	<p>「秘伝」を探る上で重要語となる「稽古」、「時分」、「花」を取り上げる。手引①では「時分」、手引②では「稽古」を中心に「花」を考えさせる。</p> <p>(1)・(2)・(3)を探るために、①・②・③を設けて重要語を理解させて必要な古語についての問いを設け、具体的な視点を明らかにする。</p> <p>古語に着目させ、辞書を活用させて、読ませるようにする。</p>	<p>「秘伝」を探る上で重要語となる「稽古」、「時分」、「花」を取り上げる。手引①では「時分」、手引②では「稽古」を中心に「花」を考えさせる。</p> <p>(1)・(2)・(3)を探るために、①・②・③を設けて重要語を理解させて必要な古語についての問いを設け、具体的な視点を明らかにする。</p> <p>古語に着目させ、辞書を活用させて、読ませるようにする。</p>
--	--	--

図6 学習の手引（『風姿花伝』検証授業Ⅱ）

ここでは、観点に即した表現を

抜き出させることで、的確に読み取らせながら、読みに観点をもたせ、深めたり広げたりできると考えた。この手引を用いることによって、次の点を明確にした。

- (1) 「因果」については、「因」が舞台に花をもたらすもととなるもの。**長年にわたるたゆまぬ稽古**、時の流れにおける不調時、相手の能が好調の時などは、みな「花」の「因であること。「果」は、「因」によって得られる舞台効果で、最高の芸境（「花」）であること。
- (2) 「男時・女時」については、**時の流れ**の中で「男時・女時」は実際に存在していても、それをどう活用し、自らの勝利に結び付けるかは、演者の技量によるとされている。
- (3) 「花」とは、「世阿弥の能楽論における美的理念の一つ。観客を引き付ける芸の美しさや面白さ。また、華やかさ。芸術美。」であり、「華やかかなり」とは、明るく美しいこと。

検証授業Ⅱの「学習の手引①」においては、「能の秘伝から生き方を探る」ための観点となる古語について読み取らせた。その際、裏付けとなる具体例について考えさせた。

検証授業Ⅰでは、同一の古典の複数章段から一人の登場人物の心情について、読みの観点を明確にして捉えさせる。このような課題解決的な学習を進めさせるための手引として活用した。

検証授業Ⅱでは、同一古典の二つの共通教材から生き方について学ばせるために、キーワードとなる古語に着目させ、辞書を活用する中で基礎的・基本的知識・技能の習得・活用を目指し、読みの観点を古語とともに探っていく学習を進めさせるための手引を活用した。

#### 4 検証授業 I における検証

##### (1) 検証授業 I の単元名及び実施学年等

学習テーマ	「愛とプライドについて考える」
学習課題	「六条の御息所の源氏への愛を探る」
単元名	「六条の御息所物語を読む」(教材『源氏物語』紫式部 大修館 精選古典)
実施学年	鹿児島県立指宿高等学校 3年2組 30人
実施時期	平成23年6月中旬

##### (2) 検証授業 I の実際

###### ア 検証授業 I を構想する手順

表12 検証授業 I を構想する手順

項目	内容						
1 単元の目標の設定 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の内容(1)指導事項エを確認して、3観点で単元の学習の目標を設定する。</li> </ul> <p>(ア) 『源氏物語』を音読することによって、古文独特の読みやリズムに親しみ、表現に即して読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>(イ) 『源氏物語』の表現を根拠に登場人物の心情を読み比べ、もの見方や感じ方、考え方を広げることができる。 (読む能力)</p> <p>(ウ) 古文単語や文法について、本文解釈のための応用的識別の理解を深め、語彙を豊かにする。 (知識・理解)</p>						
2 単元の評価規準の設定 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がどのような状況になればよいのかを明確にするために、評価規準を具体的に設定する。段階ごとに評価する必要がある場合には、①②と分ける。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>読む能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 『源氏物語』の古文独特の読みやリズムに親しみ、読み味わおうとしている。</td> <td>① 『源氏物語』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取ろうとしている。 ② 『源氏物語』の表現を根拠に登場人物の心情を読み比べ、もの見方や感じ方、考え方を広げようとしている。</td> <td>① 文中の語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにしている。</td> </tr> </tbody> </table>	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	① 『源氏物語』の古文独特の読みやリズムに親しみ、読み味わおうとしている。	① 『源氏物語』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取ろうとしている。 ② 『源氏物語』の表現を根拠に登場人物の心情を読み比べ、もの見方や感じ方、考え方を広げようとしている。	① 文中の語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにしている。
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解					
① 『源氏物語』の古文独特の読みやリズムに親しみ、読み味わおうとしている。	① 『源氏物語』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取ろうとしている。 ② 『源氏物語』の表現を根拠に登場人物の心情を読み比べ、もの見方や感じ方、考え方を広げようとしている。	① 文中の語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにしている。					
3 生徒の実態の把握 (生徒の実態)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のアンケート調査より、最も興味・関心の高かった「男女の恋愛」に関する学習テーマを設定する。</li> </ul>						
4 教材の編成 (教材の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>六条の御息所に焦点を絞り、生き霊や死霊となって登場する箇所を教科書の教材を中心教材に、原典から拾い出した教材を選択教材に編成する。</li> </ul>						
5 傍注資料と学習の手引の活用 (教材の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの古典に親しませ、複数の中心教材と選択教材を編成することから、傍注資料を補助教材とし、学習の手引の活用によって、「愛」「プライド」「愛とプライド」といった読みの観点を明確にする。</li> </ul>						
6 効果的な言語活動の設定 (言語活動の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと」の言語活動例を踏まえて、六条の御息所の源氏への愛を探るために、単元を貫く言語活動を「六条の御息所の生き方や考え方について話し合う」とする。この具体化は、複数の章段の読みを重ねることで、六条の御息所の心情の移り変わりについて話し合うことで、読みを深めたり広げたりさせる言語活動とする。</li> </ul>						
7 単元の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習テーマに基づき課題解決的に「愛とプライド」について考えさせる計画を作成する。</li> </ul>						

1の「単元の目標の設定」は、学習指導要領の「古典B」の内容の(1)指導事項を踏まえて設定した。関心・意欲・態度においては、傍注資料を音読したり、文法事項の確認として活用したりする点を目標とした。読む能力においては、複数の教材を関連付けて読み、登場人物の心情の移り変わりを捉えて重ね読みができることを目標とした。知識・理解においては、内容を読み取るために、語彙を豊かにすることを目標とした。

2の「単元の評価規準の設定」は、単元の目標を踏まえて、三つの観点のそれぞれの目標から、より具体化し、読む能力は二つの評価規準を設定した。古典の内容を記述に即して正

確に読み取り、登場人物の心情を的確に捉え、話し合う言語活動の中で、読みを深める力を身に付けさせる。そのために、以下の六つのことができるようにする。

- |                                |
|--------------------------------|
| ① 正確に音読すること                    |
| ② 語句の意味や表現の工夫を理解すること           |
| ③ 登場人物のそれぞれの心情を自分なりの言葉で表現できること |
| ④ 登場人物の心の通い合いを読み取ること           |
| ⑤ 話題を定めて話し合うこと                 |
| ⑥ 登場人物を自分と相対化して心情を述べること        |

3の「生徒の実態の把握」は、生徒の事前アンケート調査から、「男女の恋愛」を取り上げ、学習テーマを設定した。

4の「教材の編成」は、『源氏物語』の登場人物の一人である六条の御息所を取り上げて、「御息所の愛について」、「御息所のプライドについて」、「御息所の愛とプライドについて」という共通の観点をもって、複数の章段を関連付けて読めるように設定した。選択教材では、他の班と読みの交流ができるように、リード文や抜き出す箇所注意了。今回は、御息所が生き霊や死霊となった場面を編成した。

5の「傍注資料と学習の手引の活用」は、傍注資料の作成においては、古典に親しませる指導となるよう原文を音読しながら、視覚的に内容を読み味わうことができるよう指導者が作成した。また、学習の手引の作成においては、六条の御息所の源氏への愛が場面ごとに移り変わり、「愛」と「プライド」という境目のない心情へと移行する様子を生徒が主体的に課題解決できるように工夫した。

6の「効果的な言語活動の設定」は、学習指導要領の言語活動例を年間指導計画と生徒の言語能力の育成の現状から「六条の御息所の生き方や考え方について話し合う」という単元を貫く言語活動を設定した。傍注資料や学習の手引を活用して話し合うことで、読みを深め自分の意見や班の意見としてまとめたり、発表したりする中で、読む能力の育成を図る。

7の「単元の指導計画の作成」においては、今回構想した単元は、生徒の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマ「愛とプライドについて考える」を設定し、それに即した学習課題「六条の御息所の源氏への愛を探る」を設け、学習テーマに基づいた教材編成(表13)を行い、生徒がその課題解決を図る学習過程において、単元を貫く言語活動を展開する学習である。学習の手引は、複数の教材を一貫性をもって読ませるために、共通の観点(a御息所の愛について・b御息所のプライドについて・c御息所の愛とプライドについて)を示して、観点到して学習できるように工夫した。学習テーマに基づき、六条の御息所の「愛とプライド」について読み、話し合う学習活動によって、古典を読む能力の育成を図った。

表13 教材編成について

第1教材(共通) 「葵①」	・ 源氏の正妻である葵の上の懐妊に伴って、物の怪が出現する。それが六条の御息所の生き霊であるという噂を耳にした本人が思い煩って、二度と源氏に想いをかけまいと決意する場面。
第2教材(共通) 「葵②」	・ 産気づいた葵の上に乗り移った六条の御息所が、源氏に話したいことがあると、いつになく「あはれ」な様子でうち解ける場面。
第3教材(選択) 「葵③」	・ 葵の上に御息所の生き霊が乗り移ったことに気付かない源氏に、泣きながら正体を明かし、厭わしく思われる場面。
第4教材(選択) 「若菜①」	・ 紫の上に死霊として取り憑いた御息所が女童に乗りかえて、自分のせいで紫の上の病状が悪化したことを、傷心の源氏に語る場面。
第5教材(選択) 「若菜②」	・ 女童に取り憑いた御息所が、死んでなお自分を、紫の上との語らいにおいて悪く言った源氏への恨み言を言う場面。

イ 単元の実際

本単元は、「導入・展開Ⅰ・展開Ⅱ・展開Ⅲ・まとめ」の流れで実施した（表14）。

表14 単元の流れ

時	過程	学 習 活 動
1	導 入	<b>1 学習テーマを設定する。</b> <b>愛とプライドについて考える</b> 2 単元の学習課題を設定する。 「六条の御息所の源氏への愛を探る」 3 傍注資料①（教科書教材）を読み、学習の手引①を用いて六条の御息所の心情を考え、単元の見通しをもつ。 六条の御息所を取り上げて「愛」「プライド」「愛とプライド」を観点として読み、登場人物の心情を考える単元 評価規準：関心・意欲・態度①，知識・理解①
		1 傍注資料②（教科書教材）を読む。 2 学習の手引②を用いて、登場人物の心情を考える。 評価規準：読む能力①
		1 傍注資料③④⑤（補助教材）を、それぞれのグループで読む。 2 学習の手引③④⑤を用いて、グループごとにそれぞれの場面について考える。 3 学習の手引⑥を用いて、グループ内で登場人物の心情について話し合い、自分の考えをまとめる。 評価規準：読む能力①
4	展 開 Ⅲ	1 クラス全体で、各グループが発表する。 2 学習の手引⑦を用いて、全てのグループの発表を踏まえ、六条の御息所の心情について自分の考えをまとめる。 評価規準：読む能力②
5	ま と め	1 傍注資料を用いて音読する。 2 クラス全体で話し合う。 <b>3 各自で、学習テーマ「愛とプライドについて考える」を踏まえて文章にまとめる。</b> 評価規準：読む能力②

学習テーマに基づいて単元を貫く課題解決的な言語活動 Ⅱ 六条の御息所の生き方や考え方について話し合うこと

導入（第1時）においては、『源氏物語』についての既習事項を発表するという学習活動を行うことにより、『源氏物語』の中から六条の御息所を取り上げて編成した「六条の御息所物語」を読もうとする意欲をもたせた。また、傍注資料を用いて古文を音読するという言語活動により、古文独特のリズムを理解させた。

展開Ⅰ（第2時）は共通教材を、展開Ⅱ（第3時）は選択教材を班ごとに読ませた。ともに、学習の手引を用いて三つの読みの観点に即して考えたことを班で話し合うという言語活動を行うことにより、人物の心情を探りながら読ませた。

展開Ⅲ（第4時）においては、全ての班の発表を聞いて自分の考えをまとめるという言語活動を行った。

まとめ（第5時）においては、六条の御息所の生き方や考え方についてクラス全体で話し合うという学習活動を行った。

本時の学習目標は、

各班の発表から教材を

通しての学習課題の解決を図りながら、「六条の御息所の源氏への愛を探る」とした。御息所の源氏への「愛とプライド」について、他の班のまとめた二つの選択教材と、自分たちの班の選択教材を関連付けて読むことで、

表15 読みを深めたことのわかる生徒の文章例

登場人物の心情が読み取れた例	<ul style="list-style-type: none"> <li>御息所の愛は、思っても思っても相手が振り返ってくれず切ないが、生き霊になるほど人を愛することができた御息所は、とても純粋な人だと思いました。</li> <li>御息所の愛は、生き霊になってしまうほど深く、死んでからも変わらずに源氏を愛しているのは、世間からみれば気味が悪いし、おもいと思うけれど、逆に一途に思い続けていてすごいと思いました。</li> </ul>
古典への親しみがもてた例	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもなら訳や助動詞だけをおさえるといった感じで、今までは六条の御息所のことが理解できませんでした。今回は共感できる部分などみつけることができ、いつもより『源氏物語』が読みやすく面白かったです。</li> </ul>
現代生活と関連付けて読みを深められた例	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めは少し難しく思われたが、班活動をする中で御息所の思いが読み取れたと思う。今までの古典より、今の自分たちの現実と重ねることができました。</li> </ul>

読みを深めていく学習活動である。

共通教材における御息所の源氏への「愛とプライド」が、「愛」と「プライド」が別々の心情として表現されていたのに対して、時間の移行とともに、「愛」と「プライド」として分けられない心情の深さにまで心の有り様に変容していくことを、表現を根拠に読み取っていく必要がある。生き霊として源氏の前に現れ、源氏の正妻を苦しめ、時を隔ててついに死霊としても源氏の前に現れる。源氏の最愛の紫の上を苦しめるが、それを見た源氏のあまりの嘆きに、正体を明かしてしまうという、愛するあまりの切なさをほとんどの生徒が読み取っていた。表15において、登場人物の心情が読み取れた例として取り上げた。

また、古典への親しみがもてた例として、『源氏物語』の既習内容と本単元を関連付けて読めた例を取り上げた。登場人物の捉え方が変化したと同時に、現代を生きる自分たちと共感できるところをみつけて、古典への親しみがもてたと感じられた生徒の文章例である。

さらに、現代生活と関連付けて読みを深められた例として、班やクラスで話し合うという言語活動によって、難しく思われた登場人物の心情を読み取ることができたと感じ、関連付けて複数の章段から登場人物の心情の移り変わりをみたことで、今の自分たちと重ねて考えることができたと感じられた文章例を取り上げた。

年間計画を踏まえて、学習テーマを軸に学習課題の解決を図る単元の学習において、単元を貫く言語活動によって複数の教材から関連付けた読みの能力の育成ができたと考える。

### (3) 検証授業 I の成果と課題

#### ア 成果

(ア) 古典の物語文学において、特定の人物に焦点をあてて、複数の場面を取り上げて重ね読みができた。

(イ) 複数の場面を選択して読み、それを基に話し合う言語活動を行わせたことで「将来の自分に生かせる」（肯定的回答94%）と実感させることができた（図7）。

(ウ) 傍注資料について意義を理解させることができた。

(エ) 学習の手引によって、複数の場面において読みの観点を絞ったことで話し合う言語活動を円滑に進めることができた。

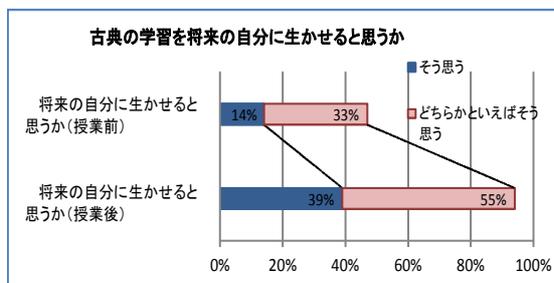


図7 古典の学習に対する意識について

イ 課題

- (ア) 現代の場面に置き換えて、御息所がどのような「愛とプライド」をもつか考えさせて読みを深めさせるなど、肯定的な回答は多かったが、まだ現代との関連付けが希薄であった。
- (イ) 話し合う活動以外の言語活動例も具体化を図る。
- (ウ) 傍注資料を作成させ、古典を読む能力の育成のための辞書の有効活用を探る。
- (エ) 古典文学だけでなく、評論においても学習の手引による読みの観点のもち方を考究する。

5 検証授業Ⅱにおける検証

(1) 検証授業Ⅱの単元名及び実施学年等

学習テーマ	達人の視点を学び、人生に生かそう
学習課題	「花」について探る ～古人の生き方から自分の生き方を考える～
単元名	能の秘伝から生き方を探る（教材『風姿花伝』世阿弥 大修館 精選古典）
実施学年	鹿児島県立指宿高等学校 3年2組 30人
実施時期	平成23年10月中旬

(2) 検証授業Ⅱの実際

ア 検証授業Ⅱの単元を構想する手順

表16 検証授業Ⅱを構想する手順

項目	内容						
1 単元の目標の設定 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の内容の(1)指導事項エを確認して、3観点で単元の目標を設定する。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>(ア) 古典芸能の秘伝を読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)</td> <td>(イ) 『風姿花伝』に記された秘伝を、表現の特色を理解して読み味わい、現代にも通じる人生観を捉えることができる。 (読む能力)</td> <td>(ウ) 文語のしまりを理解し、語彙を豊かにする。 (知識・理解)</td> </tr> </table>	(ア) 古典芸能の秘伝を読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)	(イ) 『風姿花伝』に記された秘伝を、表現の特色を理解して読み味わい、現代にも通じる人生観を捉えることができる。 (読む能力)	(ウ) 文語のしまりを理解し、語彙を豊かにする。 (知識・理解)			
(ア) 古典芸能の秘伝を読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)	(イ) 『風姿花伝』に記された秘伝を、表現の特色を理解して読み味わい、現代にも通じる人生観を捉えることができる。 (読む能力)	(ウ) 文語のしまりを理解し、語彙を豊かにする。 (知識・理解)					
2 単元の評価規準の設定 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒がどのような状況になればよいのかを明確にするために、評価規準を具体的に設定する。段階ごとに評価する必要がある場合には、①②と分ける。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>読む能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 「能」の秘伝を読み味わおうとしている。</td> <td>① 『風姿花伝』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取っている。 ② 『風姿花伝』にみられる人生観に着目して内容を読み味わい、自分の生き方について考えている。</td> <td>① 傍注資料を作成することによって、文語のしまりを理解し、語彙を豊かにしている。</td> </tr> </tbody> </table>	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	① 「能」の秘伝を読み味わおうとしている。	① 『風姿花伝』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取っている。 ② 『風姿花伝』にみられる人生観に着目して内容を読み味わい、自分の生き方について考えている。	① 傍注資料を作成することによって、文語のしまりを理解し、語彙を豊かにしている。
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解					
① 「能」の秘伝を読み味わおうとしている。	① 『風姿花伝』の表現の特色を捉え描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取っている。 ② 『風姿花伝』にみられる人生観に着目して内容を読み味わい、自分の生き方について考えている。	① 傍注資料を作成することによって、文語のしまりを理解し、語彙を豊かにしている。					
3 生徒の実態の把握 (生徒の実態)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒のアンケート調査で、興味・関心の高かった「古人の生き方」に関する学習テーマを設定する。</li> </ul>						
4 教材の編成 (教材の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の「因果の花」を中心教材として、原典の「文字に当たる風情」を補助教材とした。中心教材から「時分」について読み取らせ、補助教材から「稽古」について読み取らせて、「花」を探らせる教材編成とした。</li> </ul>						
5 傍注資料と学習の手引の活用 (教材の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古語に着目させ、辞書を活用させたり、現代語訳を考えさせたりして、空欄補充させ、傍注資料を完成させる、傍注資料を検討する。</li> <li>・ 筆者の論点を明確にさせ、「花」「稽古」「時分」といった古語に着目させて、読みを深めさせるための学習の手引を工夫する。</li> </ul>						
6 効果的な言語活動の設定 (言語活動の特性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと」の言語活動例を踏まえて、世阿弥の生き方について話し合い、自分の生き方を考えさせるために、単元を貫く言語活動を「世阿弥の『因果の花』を現代の文章に書き換えて生き方について話し合う」とする。この具体化は、現代の評論に書き換えて、現代に関連付けて話し合うことで、読みを深めたり広げたりして、自分の生き方について考えさせる言語活動とする。</li> </ul>						

1の「単元の目標の設定」は、「エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察している。」を具体化して設定した。

2の「単元の評価規準の設定」は、単元の目標を踏まえて、より生徒に付けたい力が明確になるように具体的な表現で記述した。古典の内容を表現に即して正確に読み取り、それを自分に相対化させて論じる、書く言語活動の中で、読みを深める力を身に付けさせる。そのために、以下の六つのことができるようにする。

- |                           |
|---------------------------|
| ① 正確に音読すること               |
| ② 語句の意味や表現の工夫を理解すること      |
| ③ 論旨を的確に読み取ること            |
| ④ 「花」・「稽古」・「時分」について読み取ること |
| ⑤ 達人の生き方を自分の生き方へつなげて考えること |
| ⑥ 自分の生き方について書くこと          |

3の「生徒の実態の把握」は、生徒の意識調査から、現代に生きる生徒の学習テーマを「達人の視点を学び、人生に生かそう」とし、学習課題を「『花』について探る～古人の生き方から自分の生き方を考える～」と設定する。ここでの単元名は「能の秘伝から生き方を探る」とする。

表17 教材編成について

第1教材 (教科書より 中心教材)	「花伝第七別紙口伝『因果の花を知ること』 ・ 稽古の必要を説く因果論と勝負の流れ(男時・女時)の存在と、勝運を引き寄せ る手立てから、能の場を超えて、世間一般の世界に通用する論理を知る場面。
第2教材 (原典より 補助教材)	「第三問答条々 第七問答『文字に当たる風情』 ・ 稽古を重ねることで、謡の文句の言葉と、演技とが一体となる極めた姿と、「強き 能」について述べた場面。

4の「教材の編成」は、第1教材は「因果の花」について、能の稽古の重要性と勝負事の男時・女時の存在から述べた場面である。第2教材は、稽古を重ねた姿を具体的に論じた場面を取り扱った。どちらも共通教材とすることで、能の「花」について読み深めようと試みた。

5の「傍注資料と学習の手引の活用」は、世阿弥の『風姿花伝』の教科書教材と「稽古」に関する章段を共通教材として一つ加え、「稽古」と「時分」といった言葉に読みの観点において、文章に即して内容を読み取り、話し合うことで読む能力を養い、文章にまとめることでより深い理解ができるように単元を構想する。

6の「効果的な言語活動の設定」は、検証授業Ⅱにおいては、能楽書の『風姿花伝』から「能の秘伝から生き方を探る」という単元を構想する。二つの共通教材から「一子相伝」の視点から稽古の本質を読み取り、現代の文章に書き換えるという言語活動を通じて読みを深め、古人の生き方を自分の生き方に結び付けて考えられるような授業展開をしたいと考える。古文を理解して現代文に書き換えることで読む能力の育成を図りたい。

7の「単元の指導計画の作成」は、今回構想した単元は、生徒の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマ(「達人の視点到に学び、人生に生かそう」)を設定し、それに即した学習課題(「『花』について探る～古人の生き方から自分の生き方を考える」)を設け、学習テーマを軸とした教材編成(表17)を行い、生徒がその課題解決を図る学習過程において、単元を貫く言語活動を展開する学習である。今回の学習の手引は、複数の教材を一貫性をもって読ませるために、共通の観点(a稽古について・b時分について・c花について)を示して、その観点に即して学習できるよう工夫した。教材編成における留意点は、教科書の題材を中心教材として読み深める中で、原典からの補助教材と読みの観点を明確にして読ませ、自分に引き寄せて考えを深める自主的な学習へと導くことである。

今回、「読む能力」の育成において、「世阿弥の『因果の花』を現代に書き換えて話し合

うこと」書き換えて読みを交流させる」という単元を貫く言語活動を設定した。世阿弥の生き方を現代文に書き換えることで、自分の理想とする生き方を考えさせながら、読みを深めさせた。

達人の「一子相伝」の秘伝から、古典芸能の真髄に迫る真摯な態度と向上心、そこに表れた人生訓を学び、今を生きる生徒自身につなげさせるための単元である。

イ 単元の実際

本単元は、「導入・展開Ⅰ・展開Ⅱ・展開Ⅲ・まとめ」の流れで実施した（表18）。

表18 単元の流れ

時	過程	学 習 活 動
1	導 入	<b>1 学習テーマを設定する。</b> <b>達人の視点に学び、人生に生かそう</b>
		2 単元の学習課題を設定する。 <b>「花」について探る ～古人の生き方から自分の生き方を考える～</b>
		3 教科書教材を読んで単元の見通しをもつ。 <b>「時分」「稽古」をキーワードとして読み、現代の文章に書き換えたり話し合ったりすることを通して、世阿弥の主張する「花」を明らかにする単元</b> 評価規準：関心・意欲・態度①
2	展 開 Ⅰ	1 傍注資料①（図5）を完成させて中心（教科書）教材を読む。 2 学習の手引①（図6）を用いて「時分」について考える。 評価規準：読む能力①
		1 傍注資料②を完成させて補助教材を読む。 2 学習の手引②を用いて「稽古」について考える。 評価規準：読む能力①
4	展 開 Ⅲ	1 古典の評論を現代の評論の型（序論・本論・結論）に当てはめて書き換える。 評価規準：知識・理解①
		2 「稽古」「時分」の現代における具体例を考え、現代の評論に書き換える。
		3 グループ内で、現代における自分たちの「花」が表現されている文章について話し合い、グループの代表を決める。 評価規準：読む能力②
5	ま と め	1 クラス全体で、各グループの代表が発表する。 2 グループ内で、グループ代表の発表について話し合う。 <b>3 各自で、学習テーマ「達人の視点に学び、人生に生かそう」を踏まえて文章にまとめる。</b> 評価規準：読む能力②

学習テーマに基づいて単元を貫く課題解決的な言語活動 Ⅱ 世阿弥の「因果の花」を現代に書き換えて話し合うこと

「導入」（第1時）では、学習テーマに基づいて学習課題を設定し、教科書教材を読ませて、単元の見通しをもたせた。

「展開Ⅰ」（第2時）では、教科書教材で「時分」について読ませた。傍注資料①（14ページ・図5）は、内容理解のために一部を空欄にして、辞書を引かせて完成させた。学習の手引①（15ページ・図6）は、「因果の花」を明らかにするためのキーワードの一つである「時

分」について、「男時・女時」を読み取らせて探らせた。

「展開Ⅱ」（第3時）では、補助教材で「稽古」について読ませた。傍注資料②は、傍注資料①と同じように、空欄補充の形で完成させた。学習の手引②は、「因果の花」を明らかにするためのもう一つのキーワードである「稽古」について、「強き能」と「幽玄」を考えさせた。

「展開Ⅲ」（第4時）では、展開Ⅰで考えさせた「時分」と展開Ⅱで考えさせた「稽古」の両方を踏まえて「花」を考えさせた。まず、『風姿花伝』から読み取った、世阿弥の「花」に関する主張を序論・本論・結論の型に当てはめて、現代語の評論に書き換えさせる活動を行った。次に、現代を生きる自分の立場で「花」を考えさせ、序論・本論・結論の型で文章を書かせた。次の表19は、世阿弥の主張を現代語の評論として書き換えた生徒の作品である。生徒には（ ）の中を書かせた。

表19 『風姿花伝』を序論・本論・結論の型で現代語の評論に書き換えた生徒の作品

（世阿弥）は、（能役者）である。（能）における「花」とは、（見る人が感じる魅力的な美しさ）である。「花」を咲かせるには、「稽古」と「時分」が大切である。

（能）における「稽古」の考え方は、（謡と舞い方を一体化させるように極めるようにすること）である。そのためには、（謡のあらゆることに応じて身体を使って自然な舞い方を目指すこと）が求められる。（具体例の一つに、「見る」という時には、物をしっかりと見て、「指す」・「引く」などというときには、手を前に出したり引っ込めたりするなど、身体を使い、手を使い、足を使うことである。二つに、謡の旋律と音楽的効果に応じて、身体の動かし方を的確に行うことが大切である。また、師の演じるとおりにする。）そのようにして、安定した強き（「能」）となり、幽玄の美を感じさせる（「能」）となっていると考える。

（能）における「時分」の考え方は、（調子のよい時と悪い時を見極めるようにすること）である。そのためには、（時の運を恐れ慎み、その時その時にすべきことを的確に判断すること）が求められる。（具体的には、去年花の盛りがあったら、今年は咲かないかもしれないと思い、能にもよいことがあったら、悪いこともあると考える、大事な申楽かそうでないかを判断し、大事な日には最も優れた部分が見えるように演じるべきである。）そうして、「女時」には耐えることができ、「男時」には自分の力を発揮することができると考えられる。

以上のように、（稽古に裏付けされ、「時分」を捉えることで、最高の表現となり、見る人に美しさを感じさせる）と判断する。

この活動によって、生徒は「稽古」と「時分」を踏まえた「花」についての理解を深めていた。次の表20は、生徒が「現代の『花』のある人」について考えたことを、表19と同じ要領で書いた作品である。

表20 「現代の『花』のある人」について考えたことを書いた生徒の作品

（私）は、（高校生）である。（高校生活）における「花」とは、（進路実現への勉強や友人との思い出）である。（高校生活）における「花」を咲かせるには、「稽古」と「時分」が大切である。

（高校生活）における「稽古」の考え方は、（毎日の勉強の積み重ねと信頼関係）である。そのためには、（予習・復習の徹底と、お互いをよく知ること）が求められる。（具体的には、毎日少しずつ勉強し、理解していくことで将来の自分の力になることが考えられる。友人関係においては、お互いを理解し、うちとけ合うことで、学校生活も楽しくなる。）そのようにして、安定した強き（「高校生活」）となり、「幽玄」の美を感じさせる（高校生活）になっていると考える。

（高校生活）における「時分」の考え方は、（その時その時を大事にし、無駄にしないこと）である。そのためには、（切り替えをしっかりと、集中すること）が求められる。（具体的には、勉強ばかりは苦しいときもあるからこそ、友人と過ごす時間で気分転換をするなどその時々を充実させることが考えられる。）そうして、「女時」には耐えることができ、「男時」には自分の力を発揮することができると考えられる。

以上のように、稽古に裏付けされ、「時分」を捉えることで、（進路を実現することができ、友人との信頼関係を築き上げることができる）と判断する。

この活動によって、世阿弥の生き方・考え方を、現代を生きる自分に関連付けることができたと考える。

「まとめ」（第5時）では、世阿弥の生き方・考え方について感じたり考えたりしたこと

と、それを自分と関連付けて考えたことの2点を文章（表21）に書かせた。

表21 単元のまとめの時間に書いた生徒の文章

世阿弥の考え方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「能」において大事の申樂の日に自分の能力を最大限に発揮できるということを目に付けた世阿弥は、やはり能において優れた人であったと思う。</li> <li>・ 調子の善し悪しを見極め、大事な申樂かどうかを判断し、その時に最も優れた部分が見えるように演じることが、見る人が感じる魅力的な美しさにつながると思う。</li> <li>・ 私は師の演じるとおり学習することは悪いとは思わないが、自分らしさも取り入れていいのではと思う。</li> </ul>
自分と関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人は自分の良いところだけを見がちだが、世阿弥のように悪いところも知って、自分の調子によって悪いことを活かしていくのも良いことだ。</li> <li>・ 世阿弥のように物事を自分自身でしっかりと判断できる力と集中力を養いたい。</li> <li>・ 夢を追い続け、時の運を感じ取ることでできるような心の余裕をもちながら、周りに感謝する気持ちを忘れずに生きていきたい。</li> </ul>

まとめの時間に書いた生徒の文章によって、単元の学習課題が解決されたかどうかを判断できる。学習テーマに基づき課題解決的に言語活動を展開したことで読みが深められたと考える。

現代の評論に書き換えて、さらに自分の考える「花」について話し合ったことで、自分の見方や感じ方、考え方を深められたと考える。

(3) 検証授業Ⅱの成果と課題

ア 成果

(ア) 筆者の論点に沿って「花」を探るために、「稽古」と「時分」という2点に着目させ、その2点をそれぞれ検討し話し合わせることにより、「花」というものを明確に理解させることができた。

(イ) 古典の学習に対する意識について、検証授業Ⅱ後に、検証授業を行った3年2組の生徒を対象としてアンケートを実施した。図8より、「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と全ての生徒が回答したことが分かる。6月の実態調査や検証授業Ⅰ後と比べると肯定的回答をした生徒が明らかに増えたことが分かる。生徒の興味・関心や問題意識を踏まえて課題解決的な言語活動を展開する単元を構想・実践したことが、意識の変化につながったと考える。現代の評論に書き換えさせ、更に自分の考える「花」のある生き方について書き換えて話し合ったことにより、生徒自身の見方や感じ方、考え方を深めさせることができた。

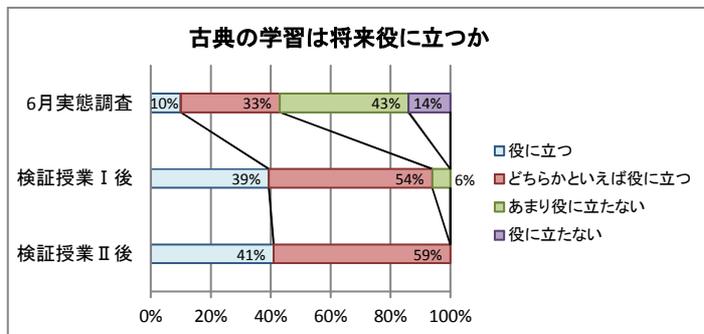


図8 古典の学習に対する意識について

が明らかに増えたことが分かる。生徒の興味・関心や問題意識を踏まえて課題解決的な言語活動を展開する単元を構想・実践したことが、意識の変化につながったと考える。現代の評論に書き換えさせ、更に自分の考える「花」のある生き方について書き換えて話し合ったことにより、生徒自身の見方や感じ方、考え方を深めさせることができた。

(ウ) 傍注資料を作成させることにより、辞書を有効的に活用させることができた。

(エ) 古典評論においても古典文学での方法を応用して、読みの観点を設定したことにより、複数の古典教材を関連付けて読むことの有効性を見いだすことができた。

イ 課題

(ア) 科目間や単元間の関連性を踏まえた研究を深める必要がある。

(イ) 検証授業で扱った以外の言語活動例の具体化を図る必要がある。

(ウ) 傍注資料の作成による古典を読む能力の育成について実践を重ねる必要がある。

- (エ) 「読むこと」の能力の育成のために「話すこと・聞くこと・書くこと」の活動の有効性について探る必要がある。

#### IV 研究のまとめ

##### 1 研究の成果

- (1) 年間指導計画を踏まえて、学習テーマを設定した単元を構想して実践したことにより、生徒に伝統的な言語文化としての古典の内容に共感をもたせて、将来の自分に役立つと感じさせることができた。
- (2) 学習指導要領や先行研究などを踏まえて、単元を貫く言語活動を展開したことにより、生徒に主体的、課題解決的な学習をさせることができた。
- (3) 傍注資料を作成させることにより、辞書を効果的に活用させ、文語のきまりを理解させることができた。
- (4) 学習の手引を工夫したことにより、生徒に読みの観点を定めて、キーワードに着目させながら、読みを深めたり広げたりさせることができた。

##### 2 今後の課題

- (1) 平成24年度には中学校で新学習指導要領が全面実施される。平成25年度からは、伝統的な言語文化について関心を広げたり深めたりすることを重視して指導された生徒が高等学校に入学してくることになる。高等学校国語科において、これからは、小・中学校からの系統性を踏まえた古典学習の指導の在り方を明らかにする必要がある。
- (2) 本研究においては、同一の古典作品を教材とした単元を構想・実践した。古典の文学である『源氏物語』では、登場人物の一人（六条の御息所）を取り上げて、その人物が描かれている複数の文章を教材として編成した。また、古典の評論である『風姿花伝』では、筆者の主張の一つ（因果の花）を取り上げて、その主張を明らかにするための論拠が描かれている二つの文章を教材として編成した。今回の研究において、同一の古典作品における単元についての考察を深めてきたが、これからは、異なる古典作品における単元の学習の在り方を明らかにする必要がある。

## 【引用文献】

- 1) 日本国語教育学会 『月刊国語教育研究 2001 1 No. 345 特集 古典総合単元の開発』  
平成13年 東洋館出版社
- 2) 鹿児島県総合教育センター 『研究紀要 第115号』  
平成23年 3月

## 【参考文献】

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 平成22年 教育出版
- 日本国語教育学会 『月刊国語教育研究 2012 2 No. 478 特集 伝統的言語文化の指導』  
平成24年 東洋館出版社
- 大村はま著 『大村はま国語教室 第1巻 国語単元学習の生成と深化』  
昭和58年 筑摩書房
- 大村はま著 『大村はま国語教室 第3巻 古典に親しませる学習指導』  
昭和58年 筑摩書房
- 大村はま著 『大村はま国語教室 第4巻 読むことの指導と提案』  
昭和58年 筑摩書房
- 大西道雄著 『学習の手引きによる国語科授業の改善』 昭和62年 明治図書
- 日本国語教育学会 『豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造 I 理論編』  
平成22年 東洋館出版社
- 鳴島甫・高木展郎編著 『高等学校新学習指導要領の展開 国語編』 平成22年 明治図書
- 西辻正副編著 『国語の授業を変える1 評価規準をどう創るか 中・高等学校編』  
平成23年 明治書院
- 竹本 幹夫訳 『風姿花伝』 平成21年 角川ソフィア文庫
- 市村 宏訳 『風姿花伝』 平成23年 講談社学術文庫
- 円地文子訳 『源氏物語』 卷一～卷十 昭和47年 新潮社
- 新日本古典文学大系 『源氏物語』 一～五 平成9年 小学館

長期研修者〔近藤 美希〕

担当所員〔鎌田 政司〕

#### 【研究の概要】

本研究は、「古典B」の単元構想を通して、伝統的な言語文化としての古典を読む能力を育成する学習指導の在り方を研究したものである。

具体的な視点は、生徒に共感をもたせながら学習させるための「年間指導計画の作成」、主体的に取り組ませながら課題を解決させるための「単元を貫く言語活動の設定」、また、言語的抵抗をなくして辞書を活用させて内容を理解させるための「傍注資料の作成指導」、さらに、古語に着目させながら読みを深めたり広げたりさせるための「学習の手引の活用指導」の4点である。

その結果、生徒が「古典を将来役に立つ」と実感し、古典を読む能力を身に付けるとともに、古典に親しませる指導につながったと考えられる。

#### 【担当所員の所見】

本研究は、高等学校国語科の古典の学習指導の在り方について、単元構想を通して実践化を図ったものである。

新学習指導要領が平成25年度入学生から実施されることを踏まえ、現行の学習指導要領における「古典」の内容を改善した科目である「古典B」について考察した。

「古典B」は、「国語総合」の3領域1事項のうち、「C読むこと」の古典分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させた科目である。

本研究では、伝統的な言語文化としての古典を読む能力を育む単元を構想・実践した。生徒の興味・関心や問題意識を踏まえた学習テーマを設定し、それに基づいて単元を貫く課題解決的な言語活動を具体化して、その単元の有効性を検証した。

実際には、『源氏物語』を教材とした単元と、『風姿花伝』を教材とした単元を構想・実践し、それぞれにおける学習指導について考察した。これらの取組により、「古典B」における単元の在り方を示すことができたと考える。

今回の研究内容が、これからの教育実践の場で更に充実され、主体的に古典の学習を行う高校生が増えることを期待したい。